



研修視察報告書

令和3年4月23日

〔会派名： 清風クラブ 〕

代表者氏名	森岡 秀之 	記録者氏名	坂本 直司 
視察者氏名	坂本直司		
視 察 日	令和3年4月10日（土）午後1時30分から午後4時		
視 察 先	ひきこもり支援フォーラム（四日市市文化会館 第1ホール）		
目 的	ひきこもり支援の実情と課題を知る		

《視察概要》

全国で115万人、三重県でも16,000人とされるひきこもりに悩む人々への支援を考える三重県議会議員有志の会主催によるフォーラムに出席。（来場者数は約500名）

佐賀県で活躍する認定NPO代表の谷口氏の講演により、当事者へのアプローチにおいて背景や過去の対応経緯調査など事前準備と担当者の人選が非常に大切であり、これを間違えると逆効果になることと、そのために各分野に精通したスタッフをそろえていることの説明が印象に残った。

講演後のパネルディスカッションに出席した知事からは、三重県として令和3年度から本格的に取り組むこととし、①実態調査、②計画作り、③体制作り、を進めていくとの説明があった。

(1) 講演（谷口仁史 氏）

- 1) ひきこもりは誰もが陥る問題で、従来型の対策ではダメ
- 2) 専門家が関わっていても学校でいるときに発生する
- 3) 当事者本人が来ることを待つだけではいけない→窓口のワンストップ化が必要
- 4) 社会的孤立や排除を生まないこと
- 5) アウトリーチ = 家庭教師型
- 6) 本人支援だけでは限界、家庭環境へのアプローチが重要（家庭環境に問題63.4%）
- 7) 多重に困難を抱えているケースが多く（84.7%）一人の担当者では無理
多職種連携チームで対応する、複数分野の専門職によるチーム対応
- 8) 当事者と担当者は価値観のチャンネルを合わせる事が大事
- 9) お兄さんやお姉さんのナナメの関係性を生かす

(2) パネルディスカッション（谷口氏、知事、家族会の堀部氏）

- 1) 今年度は相談支援推進員を養成し、人材育成を行っていく（知事）
- 2) 最前線のアウトリーチは難しくノウハウが必要（谷口）
- 3) 脱出のためには共感的理解と無条件の肯定が必要（堀部）

《詳細は添付メモ参照》



【ひきこもり支援フォーラムのメモ】

1. 谷口氏による講演

- ・ひきこもりは誰もが陥る問題で従来型の対策ではダメ
- ・専門家が関わっても学校でいるときに発生する
- ・来ることを待つだけではいけない → 窓口のワンストップ化
- ・社会的孤立や排除を生まないこと
- ・アウトリーチ=家庭教師型
- ・本人支援だけでは限界、家庭環境へのアプローチが重要 (63.4%が家庭環境に課題)
84.7%が多重に困難を抱えている、一人の担当では無理
- ・多職種連携チーム(複数分野の専門職によるチーム)による対応が必要
- ・当事者と価値観のチャンネルを合わせる必要がある → 担当の人選
- ・お兄さんお姉さんの斜めの関係性を生かす
- ・人口 82 万人の佐賀県では 700 団体から成る青少年サポートネットワーク in SAGA で情報の共有を行う
- ・「若者の味方隊」として 150 種の仕事を用意
- ・ノウハウや人材が県内だけでは無理な時、全国に助けを求める
- ・どんな境遇の子どもも若者も見捨てない
- ・限界を補うための連携協力体制をつくる
- ・出来る人に頭を下げてネットワークをつくる (一人で出来ることには限界がある)
- ・アウトリーチで接する 63.1%の若者が過去誰かが訪問しているが、その 61.4%が不信感を持っている → 生きる意欲すら奪っている
- ・「事前準備」がアウトリーチの成否を握る
- ・繋がるあるいは繋がりを維持する力が奪われた状態
- ・あっちの窓口、こっちの窓口へと振り回される → 寄り添い伴走が必要

- ・ひきこもりの人は外に連れ出そうとすると人目を気にするので、最初は夜がいい (ストレス要因を無くす)
- ・根性論はダメ、配慮の無い外出や体験等は苦手意識やトラウマを強める
- ・一方配慮を長く続けると依存になってしまうので、段階的にやっていくこと
- ・まずは安全な小集団から始め、質的量的転換をやって徐々にストレス耐性を高めていく
- ・最初は本人が好きなおことから始める
- ・当事者にとって一番いいプログラムをつくる
- ・行政は制約が多く難しくても民間だと自由度が高い

- ・すべての仕事に価値がある 地域の職親

- ・学校や相談室で得られる情報と実際は差異があることが多い
- ・人と繋がる力が弱くなっているため、誰か複数年伴走してやる必要がある
- ・担当者には価値観のチャンネルが合う人を選定すること
例えばゲーム依存ならゲームが得意な人をあてる
- ・本人との相談は家族への配慮から外で行う
- ・家族支援は共通の目的を共有することから
- ・行動の背景を察することのない正論は不信感、拒絶感を強める！
- ・縦割りでは一部の支援では家族すべてを救えない

2. パネルディスカッション

<知事>

- ・県の取り組みについて
実態把握、計画作り、体制作り をこれからやっていく
- ・県内の推定ひきこもり人数
15歳から39歳：7570人
40歳から64歳：8570人（2016年 内閣府調査より推計）
- ・2021年1月から2月実施の支援機関へのアンケート調査によると
男性が8割で、ひきこもりが5年以上に及ぶ人が半数以上
当事者と接触できていない 55%
きっかけが不登校である割合 24.9%
人間関係が原因の割合 24.7%
- ・令和3年度には課題解決に特化した新しい計画をつくる
体制作りでは令和3年度に検討委員会を設置し令和4年度に繋げる
- ・地域共生社会を目指し、重層的なネットワークが大切
今年度は相談支援推進員養成の年とし、人材育成をやっていく

<谷口>

- ・ここまで政治がやると言ってくれるのはありがたい
- ・難しさは最前線のアウトリーチが大切で、ノウハウが必要
- ・行政では把握までは出来るが、どうアプローチしたらいいか分からないことが多い
- ・ネットワークをやる時、すでに現場は一杯いっぱい、屋上屋をかけることが出来ないと
組織の合理化をして、最前線の人に負担がかからないようにすることが大切

<家族会：堀部>

- ・家族会としての意見は、「親にとって子どもが不登校になるのはなぜか分からない」
- ・トヨタ流の「ナゼナゼ分析」でも原因究明出来ない
- ・みえオレンジの会の活動は、四日市で定期家族会、おしゃべりサロン、当事者会（ゲームやトランプ）、手芸の会、パソコン教室、訪問支援活動、など
- ・ひきこもりから脱出するためには、共感的理解と無条件の肯定が必要
- ・最も大切なことは、相談に来る人（お母さん）は、ほとんどが過干渉で、早く来てほしいというが、アウトリーチは本人の了解が必要
- ・本人の気持ちが揺れ動くので、ドアを開けてくれなくても、あきらめずにドアの前で5分だけ話すことにしている

<知事>

- ・アウトリーチ：県としても支援員を配置し94回の相談を受けた
- ・アウトリーチするにも事前準備が必要
- ・多職種のチームで検討して最適な人を人選することが大切で、量も大事だが質が大切

<谷口>

- ・県がやると形式的になってしまうことが多い
- ・専門職はそれぞれにやり方を持っているので、上手いいかないことが多い
それではなく、エビデンスを積み上げ直してチームで取り組むことが大切

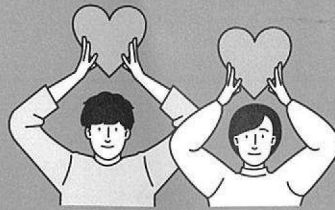
<知事>

アセスメント（事前準備）の仕組みをどうやって作っていったのか？

<谷口>

- ・まだ途中だと思っている
- ・あえて多職種でやったのは、今までのやり方が上手くなかったことの現れ
- ・その制度を越えてやらねばならない
- ・電子カルテでデータを共有できるようにしていく
- ・ライフステージ、分野を越えて出来るようにしている

誰一人
取り残さない



開催日

2021年

4/10_土

入場無料

ひきこもり 支援フォーラム

開催します!!

時間 13:30~16:00(受付12:30~) 会場 四日市市文化会館 第1ホール

講演会

講演
テーマ

「出かける」「つながる」「はぐくむ」
ひきこもり支援を!

講師

- 認定特定非営利活動法人「スチューデント・サポート・フェイス」代表理事
- 佐賀県ひきこもり地域支援センター「さがすみらい」センター長

谷口仁史氏



講師プロフィール

1976年生まれ、佐賀大学文化教育学部卒業。在学中から不登校、ニート等の状態にある子ども・若者へのアウトリーチ(訪問支援)に取り組む。令和2年3月末日現在、委託事業を含む約42万2千件の相談活動、約4万件のアウトリーチに携わった他、幅広いネットワーク構築や社会的受け皿の創出、執筆や講演活動など多彩な活動を通じて、社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立を目指している。

NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」出演!!(H27年8月放送)

シンポジウム

テーマ

アウトリーチと重層的な
支援ネットワークで
多面的アプローチ

パネリスト

三重県知事

鈴木 英敬氏

家族会代表

堀部 尚之氏

KHJ全国ひきこもり家族会連合会
みえオレンジの会 代表

講師

谷口 仁史氏

オープニングバンド演奏



出演: スロウハイツと太陽

名古屋の4ピースロックバンド。
人の弱さや、もろさ、そして命に
ついて真摯に向き合った世界観
を感じてほしい。



当日参加もOKです! ぜひお気軽にお越しください!!

[主催] ひきこもり支援を考える三重県議会議員有志の会 [後援] 三重県、三重県教育委員会、三重県社会福祉協議会
[協賛] (株)日商、ALSOK三重総合警備保障(株)、藤川設計(株)、(株)リョーケン、(株)三重加藤牧場、(株)三重給食センター、
(株)鴻池組、四日市印刷工業(株)、(株)サンスポーツ

参加申し込み・フォーラムの趣旨に関しましては裏面をご覧ください →

フォーラム開催趣旨

近年、ひきこもりが社会問題となっています。

ひきこもり支援にあたっては、分野を超えて連携する取り組みを強化し、「誰一人取り残さない」という思いを持って、地域の皆さんが互いに支え合い助け合う地域共生社会づくりを推進していくことが重要です。

三重県は、令和3年度中に新たにひきこもりに特化した推進計画を策定する予定です。新たにスタートするひきこもり支援について、ともに考えともに取り組んでいく礎となるよう、「ひきこもり支援フォーラム～誰一人取り残さない～」を開催いたします。

アクセス

四日市市文化会館 第1ホール

三重県四日市市安島2-5-3
TEL 059-354-4501

〈電車でお越しの方〉

近鉄四日市駅、あすなろう四日市駅より徒歩10分

〈お車でお越しの方〉

東名阪自動車道 四日市インターより車で約15分

※満車の場合、近隣の民間有料駐車場へお願いします。周辺道路は駐車禁止です。



参加申込書

必要事項をご記入の上、FAXでお申込みください。

●参加者氏名 フリガナ	●参加人数	●電話番号
●住所 〒	名 ●所属・勤務先	

FAX 059-329-5537

お申込み
締切

4月5日(月)

当日参加も可

「お申込み・お問合せ先」 「ひきこもり支援を考える三重県議会議員有志の会」事務局 TEL 059-329-5538

※ご記入いただいた情報は、本フォーラムに関わる目的にのみ使用し、他の目的には使用いたしません。

新型コロナウイルス感染症拡大により、中止あるいは延期となる場合には、参加申し込み者にご連絡させていただきます。